

コレクション紹介

平井剛夫 甲虫コレクション

片井信之



コガネムシ科糞虫の一例



未整理のタトウ標本 とりあえず保存中

平井剛夫氏は、1944 年静岡に生まれ、高校時代まで静岡で育ちました。その後進学のために上京し大学院終了後、農林省に採用され北海道（帯広市）、九州（筑後市）、栃木県（那須塩原市）や茨城県（つくば市）の試験場や研究所に勤務されました。また、アメリカやフィリピンなど海外にも滞在され、それぞれの赴任地周辺の地域で昆虫採集を続け、コレクションを増やしました。定年後の 2005 年静岡市葵区瀬名に居を構え、すぐ横の長尾川や麻機遊水地などをホームグラウンドとしました。静岡では、いろいろな採集会に参加し、子供たちに昆虫採集の楽しさを指導し、また富士市にある富士山こどもの国にも定期的に行き、自然教室や昆虫教室などでも指導者として活躍され、傍ら彼自身も採集を楽しんでおりました。

今回紹介する甲虫コレクションは、平井氏自身が標本作成されたものに、近年静岡で採集したタトウ保存されていた甲虫を追加し、実兄の平井克男氏が同定、片井が整理、登録したコレクションです。

今回紹介するコレクションは、甲虫目 11 科、772 種、16,806 点です。ドイツ箱 56 箱です。カミキリムシ科 271 種 1,104 点、コガネムシ科 135 種 3,824 点、オサムシ科 111 種 1,605 点、ゴムシダマシ科 175 種 5,069 点等。コレクションは甲虫全般にわたっていますが、なかでもい

わゆる糞虫は、多くの種類（36 種類）があり、各種の頭数はクロツヤマグソコガネ 420 点、ヒメエンマコガネ 350 点、カドマルエンマコガネ 282 点、ツノコガネ 159 点、ゴホンダイコクコガネ 153 点、センチコガネ 154 点、オオセンチコガネ 126 点などです。クロツヤマグソは、2006 年 6 月 4 日に 120 点、6 月 19 日同じ場所に行き 220 点と採集しています。採集するのも大変だと思いますが、帰宅してからタトウに整理するのも並みの大変さではなく、その晩の晩酌もできたかどうか？またテントウムシ科のナミテントウムシはドイツ箱 1 箱分の 500 点ありました。その中でも 160 点は自宅から近くの静岡市葵区平山に 4 日間連続で行き、越冬中の群れを採集したものです。色彩の変化があり、個体変異を紹介するには適切な標本です。

「養老孟司さんと語る」という新聞記事に出会いました。「僕は死ぬまで虫を触っていたい。片付けていない標本も仕事もあって、本当は入院なんかしている暇はないんです。」（朝日新聞 2025 年 8 月 25 日）平井剛夫氏もこんな心境だったと思います。2024 年 2 月に沢山の未整理の標本を残して亡くなりました。

未整理のタトウの標本や外国産の甲虫など、まだまだ整理すべき標本は多数あります。少しでも平井剛夫コレクションが博物館の資料として役立つことを願っています。